

8月の農作業

平成21年8月10日
J A テ ラ ル 越 前
奥越農林総合事務所

今月のポイント

- ★間断通水の励行
- ★病害虫防除の徹底
(穂いもち・カメムシ・イネアザミウマ)
- ★早生の適期刈り取り
- ★そばの播種作業
- ★ナス・ネギ・ミディトマト・ほうれん草
菊・シンテツポウユリの収穫
- ★花卉の病害虫防除

1. 今後の気象予想 (新潟地方気象台)

北陸地方 1か月予報

(8月1日から8月31日までの天候見通し)

〈特に注意を要する事項〉

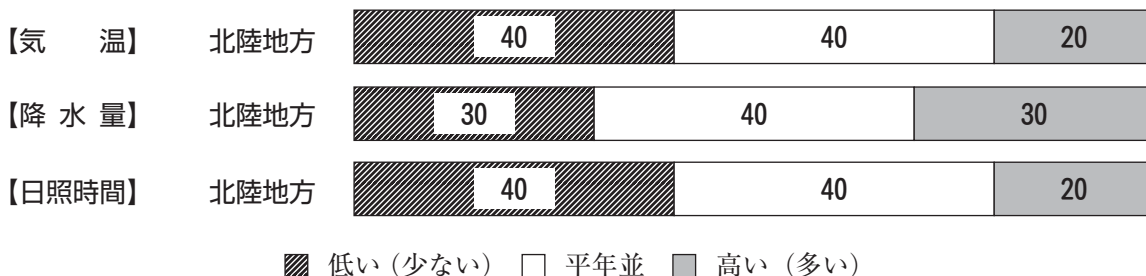
平年に比べて日照時間が少ない見込みですので、農作物の管理等に注意してください。

〈予想される向こう1か月の天候〉

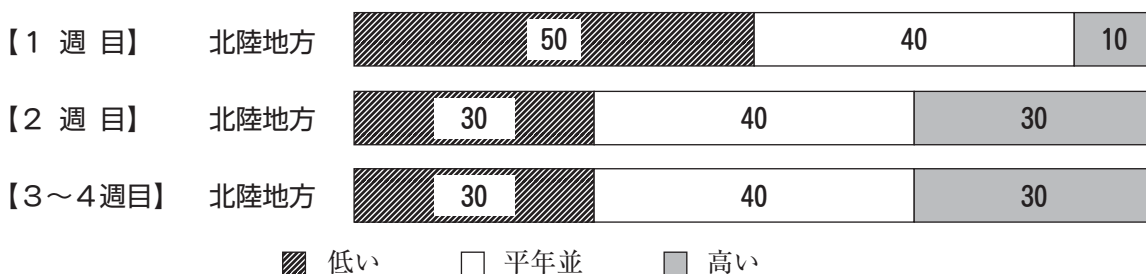
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の気温は平年並または低い確率ともに40%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は低い確率50%です。

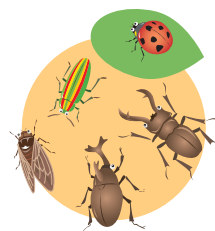
〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉



〈気温経過の各階級の確率(%)〉



〈予報の対象期間〉	
1 か月	8月1日(土) ~ 8月31日(月)
1 週目	8月1日(土) ~ 8月7日(金)
2 週目	8月8日(土) ~ 8月14日(金)
3~4 週目	8月15日(土) ~ 8月28日(金)



北陸地方3か月予報

〈8月から10月までの
天候見通し〉

〈予想される
向こう3か月の天候〉

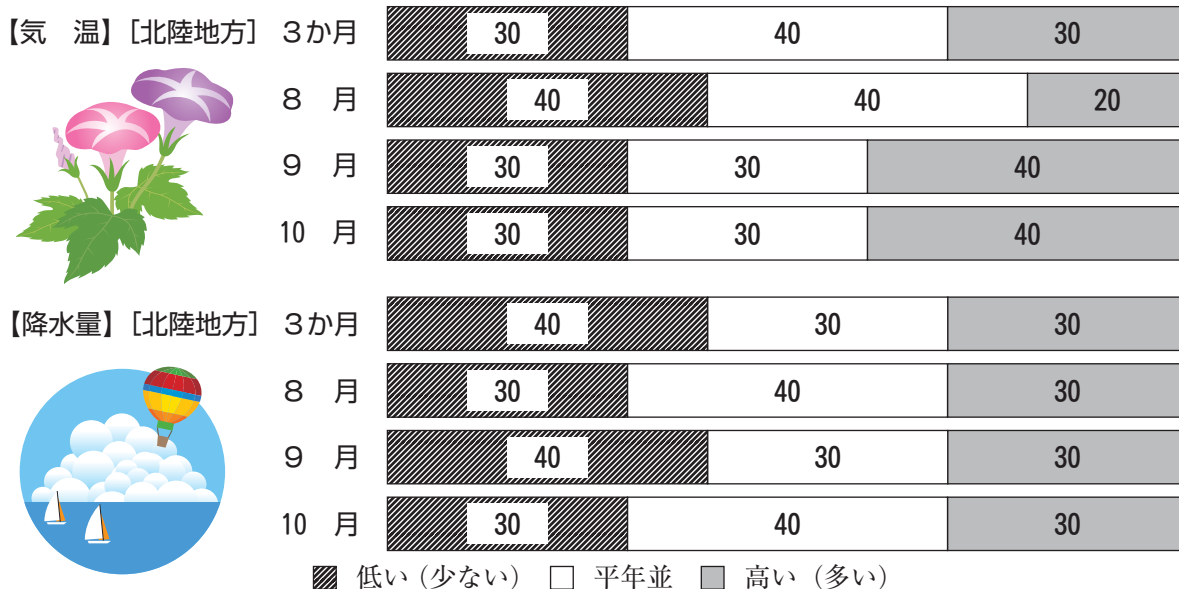
向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

8月 平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。天気の不ぞつく時期がある見込みです。気温は平年並または低い確率ともに40%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。



〈向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)〉



2、農作物対策

水稲

水管理・病害虫防除の 管理徹底を...

今年の稲の生育は、日照不足で経過したものの早生・中早とも草丈は平年並、茎数は平年よりやや少な目の状況ですが、圃場間による差も見受けられます。

適期収穫期を判断する意味からも、出穂期を確認しておいてください。

今後は、水管理・病害虫防除に万全をきして良質米生産に努めましょう。

病害虫防除

水稲カメムシ類の発生量が、平年の3倍以上となっております。

斑点米の被害にならないよう、適期防除を心がけてください。降雨が続く場合でも、雨の止み間を見て防除を行ってください。

(散布後3時間内に降雨が無ければ薬剤散布効果あり)

水管理

1、登熟向上のため、3日以上湛水は避け、間断通水によって根を健全に保ち登熟歩合を高め、千粒重の向上を図りましょう。

2、台風やフェーン現象の時は水分の蒸散が激しく、登熟や品質が悪くなるので、湛水管理により水分補給を行ってください。また、褐変粉による茶米の発生防止のため、台風通過後は直ちに落水するとともに、ブラシン粉(収穫21日前まで)で防除してください。

3、早期落水は、胴割米・死米・腹白米等の発生原因となり、品質低下を招きますので、落水時期は、早生で5日前、中生で7日前を目安に間断通水に努めましょう。

※とくに一発肥料を使用した圃場では、土壌の水分不足により肥効が極端に低下しますので、前記の水管理を徹底してください。

刈り取り予想

今年の稲の生育は、例年並〜や

や遅いことから、現在の刈り取り予想は五百万石の出穂期7月22日では8月27日前後からの刈り取り、コシヒカリでは出穂期8月2日では9月12日前後からの予想ですが、今後の天候により変わりますので注意してください。

適正な乾燥調整

良食味米生産の最後の仕上げです。過乾燥に注意し、水分14.5～15.0%に仕上げてください。また、粉高は検査規格から外れ、再調整となりますので、充分に吟味してください。

※水稻栽培日誌の 記帳提出について

早生品種………8月10日まで
中・晩生品種……8月24日まで
各支店まで提出してください。



そば

そばは湿害に弱いので、排水を良くし砕土・整地に心がけ、初期生育の均一に努めましょう。

1、播種量 10アール当たり5kg
(条播、散播とも)

2、元肥

複合高度44を7kg/10kgまたは
テラルのもとさん10kg/10a

3、播種時期〔基準〕

平坦地 8月15日から20日

中山間地 8月10日から15日

4、発芽を促進させるため、播種後トラクターによるロータリーでかく拌しふく土とする。

5、播種後は、畝間への入水をし
ない。

里芋

水管理

降雨が続く場合、長時間の滞水はさせないようにする。晴天続きの時は3～4日おきに夕方地温が下がった時に畝間灌水を行う。
※水による肥料吸収効果で生育や

収量が大きく左右される。

子ズイキ刈り込み

本葉7枚目以降より、子芋の栄養成長が盛んになり、子ズイキが発生する。放置しておくとしらになり品質が落ちるので、2～3葉期までに必ず刈り込みを行う。

土寄せ

この時期より親芋の肥大が盛んになり、子芋の形成が始まるため、浅植えとなった所は日焼け芋など品質が悪くなるので、株元を中心に土寄せをすること。

マルチの裾まくり

梅雨明け後、マルチの裾をまくり水分を蒸散させ、畝の空中湿度を保ちハダニの発生を抑える。



ネギ

軟腐病が発生しやすい状況となっています。バイオキーパー水和剤(もしくはヨネポン水和剤)で発

生予防に努める。既に発生した株については、見つけ次第圃場から抜き取る。

ナス

うどんこ病の増加が懸念されま
す。既に発生している圃場ではト
リフミン水和剤やモレスタン水和
剤などの治療剤散布を行う。

・追肥

8月は1週間おきに、9月に入
れば10日前後で追肥する。

花卉

キク

7月の降雨により、べと病等の
葉の病気が蔓延しています。病変
に侵された葉は早期に取り除いて
ください。

8月は出荷作業に追われ、病害
虫防除がおろそかになりがちです。
注意してください。また、8月後
半(20日頃)には、暮れ植え用の
苗作りもしなければなりません。
計画的に作業しましょう。

6・7月咲きの管理

○切り残したキクの処理

収穫が終わった夏ギク圃場でも、除草や病害虫防除も行いましょう。また、切り残した花は放置せず、圃場外へ持ち出し、処分しましょう。**病害虫の巣窟**になってしまいます。

○古株の切り戻し作業

収穫の終わった古株が長く伸びているので、約3cm位残して、地際近くまで切り戻す。

○親株の追肥

花を切り終えた後、そのまま伸びていたり、切り戻しをしたりで、株も根もかなり弱っています。切り戻し作業が終わったら、すぐにOK-F1の300倍液で力をつけておこう。その後、すぐに苗作りのための肥料を施す。有機ペレ5kg、または、そ菜3号2kg（いずれも畝30m当たり）

*そ菜3号については、2kgを一度にやると、キクの根を痛める場合もあるので、2回に分けて施す。

○土寄せ作業

新芽が出て、かなり伸びてきたら、新芽の付け根あたりまで土寄せする。土をかけることで新芽の付け根から新しい根が出てくる。また、新芽の付け根を暗くすることで発根が促されます。

土の代わりにモミガラを、新芽の頭からかけて付け根あたりを暗くすることでも根が出てきます。ただし、モミガラで発根させると根は粗くなります。

○発蕾防止と伸長防止

土寄せした後、すぐにエスレールの200倍液を散布しておく。エスレールを散布することで、発蕾防止・伸長防止にもなり、良苗作りにつながります

9月咲きの管理

○出蕾期に入り中輪ギクでは摘蕾作業を行います。早めの作業を心がけてください。

○Bナイン（ホルモン剤・伸張抑制・800〜1000倍）は最も早い蕾が確認できた時と摘蕾時に1回ずつ散布します。

10月咲きの管理

○病害虫防除の徹底に努めます。

病害虫防除

管内ではすでにダニの発生が見受けられます。発生状況に応じた防除を行いましょう。

○ダニ

ダニは葉裏に生息していますので、防除はノズルを上向きで丁寧に散布します。

ダニは抵抗性がつきやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布します。

▼主な使用農薬

（卵・幼虫）

オサダンフロアブル・テデオ
乳剤・ピラニカEW・ダニカット乳剤（卵・成虫）

カネマイトフロアブル（出蕾時に散布すると薬害の恐れあり）・マイトコーネフロアブル・ビルク水和剤

○黒斑褐斑・灰色カビ病

▼主な使用農薬

ジマンダイセンフロアブル・ダコニール1,000・ベンレート水和剤・ゲッター水和剤など

○スリップス（アザミウマ類）

蕾の中にスリップスなどが入りますと防除が困難になり品質が低下しますので、開花の早い品種から防除を徹底してください。

▼主な使用農薬

ジェイエース水溶剤・ハチハチ乳剤・コテツフロアブル・テルスターフロアブル

スプレーギク

○8月の作業は、挿し芽・圃場の準備・定植を行います。その後、ピンチ（摘芯）を行います。

▼主な使用農薬

ジェイエース水溶剤・トレボン乳剤・アドマイヤーフロアブル



花の生産者を常時募集しております。特に暮れ植えキクおよびスプレーギクは今から定植準備に入りますので、興味のある方は各支店または営農特産課までご連絡ください。

